

全分野の職業人を対象とするロータリー倫理訓

- 1915年7月19日～23日、サンフランシスコにおける

第6回ロータリー・クラブ国際連合会年次大会決議 -

この職業倫理基準は、われわれに共通な人間性を求める心をその骨子とするものである。自分の取引、自分の野心及び自分をめぐる諸関係は、常に、社会の一員としての自分の最高の義務を考慮に入れてのことでなければならない。職業生活のすべての地位において、自分の当面するすべての責任において、自分の主たる思考は、かかる責任を果し、かつかかる義務を履行し、かくして、その各々の任務を完了したとき、自分は人間の理想と業績とを、当初よりも幾分向上させなければならない。この見地から、本委員会の議決によれば、国際ロータリーの商業倫理訓の基本は次に掲げる原則となるものである。すなわち、

- 1 .自分の職業に価値を認め、これにより自分は社会に奉仕すべき好個の機会を与えられたものと思うべきこと。
- 2 .自分の身を修め、自分の実力を涵養し、自分の奉仕を広めるべきこと、ならびにそれを通じて奉仕に徹する者に最大の利益ありとするロータリーの基本原則を実践すべきこと。
- 3 .自分は企業経営者であり、したがって成功の野心を抱いていることを自覚すべきこと。だが、自分は道徳を重んじる人間であり、最高の正義と道徳に基づかざる成功はこれを浴するものでないことを自覚すべきこと。
- 4 .自分の商品、自分の労働、自分のアイデアを金銭と交換することは、全当事者がこれによって利益を受ける限りにおいてのみ、適法にして道徳にかなうものであるとの信念をもつべきこと。
- 5 .自分の従事する職業の水準を向上させるため最大の努力を払い、かくして、自分の業務の処理の仕方は賢明であって、利益を産み、この実例にならば幸福の道が開けることを同業の者に知らしむべきこと。
- 6 .同業者と同等ないしそれに優る完全なサービスを尽くすような方法をもって企業経営を行うべきことまた、もし完全なサービスか否かに疑念の生ずる場合には、当該責務上妥当な範囲を越えてまでもサービスを行うべきこと。
- 7 .専門職業にたずさわる者又は企業経営者の最大の資産は、一つはその友人であることと理解すべきこと。また友情に基づいて手に入れたものこそまさに倫理的かつ正当なものであることを理解すべきこと。
- 8 .真の友人は互に何も要求するものではなく、利益のためにみだりに友人の信頼を利用することはロータリーの精神と相容れないばかりかその倫理訓にもとるものと思うべきこと。

- 9 .社会秩序の立場から他人が絶対に認めないような不正な方法によって機会を利用し、これによって得た人の成功を正当又は倫理的なものと考えてはならないこと。また、物質的成功を得るがため、人が倫理的に問題ありとしてしりぞけるような機会に乗ずるが如きことをしてはならないこと。
- 10 .自分は一般人に対して義務を負う以上に同僚たるロータリアンに対して義務を負うものではない。ただしロータリーの真髄は競争ではなくして協力であるからであり、また党派心はロータリーの如き制度においてはあってはならず、かつ人権はロータリーの内部に限られるものではなく、その範囲とその重要性とにおいて人類そのものの存在と同程度のものであることをロータリアンは主張するものだからであり、かつまた、ロータリーはこの厚遇な理想に向ってすべての制度に属するすべての者を教化するために存在するものである。
- 11 .最後に「すべての人にしてもらいたいと欲することを人に対して行うべし」という黄金律の普遍性を信じ、われわれは、地上に天然資源がすべての者に均等な機会として与えられてこそ、人類社会は最良の状態となるべき事を主張してやまないものである。